

インターバンクの声（2015 年 6 月 18 日）

米連邦準備制度理事会（FRB）の早期利上げ示唆を期待した市場は、アジア時間の終盤からニューヨーク時間の昼前までドル円が徐々に上昇、連邦公開市場委員会（FOMC）の発表を待たずに 124 円 30 銭まで上げた。ここから大きな変化がないまま数時間を経て FOMC 声明と政策金利見通しの発表を迎えたが、一瞬何故かドル高方向に振れたものの結果的にはイエレン議長の会見を経て 123 円 20 銭台までドルが売られた。声明は米経済について「緩やかに拡大している」としたが、年内の利上げを実施する姿勢を維持しながらも、その後の引き上げペースは前回の予想よりもさらに緩やかになる見通しを示した。フェデラル・ファンド（FF）金利予測は、2015 年末は前回（3 月 18 日）の時と変化ない 0.625% としたが、2016 年末、2017 年末については、いずれも下がっており、この FF 金利先行き見通しの下げが今回の結果がややハト的に傾いたとされている所以だろうか。先週からの黒田日銀総裁の円安牽制発言とその否定、そして注目された FOMC も済ませたことで、市場は一旦小休止したいはずだが、次はギリシャ問題で揺れるユーロに照準が向けられるのかも知れない。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。